!大阪・八尾・大東周辺地域の

医療機関情報誌

ご近所ドクターBOOK

ご自由にお取り下

FRE

2016

保存版

— Spring —

この街で見つけよう!

安心・頼れるかかりつけ医

元ドクターの素顔や人柄に接近!インタビュー

特別企画

域医療のこれからについて

長・区長からの

ッセージ

地元病院・医院の

エリアインデックス付(410院)

ぱど

発行／株式会社 関西ぱど

東大阪市長田東2-3-5 日秀ビル2F　TEL／06-6748-7810

Hello ご近所ドクター

八尾市光町

想いを果たす医療を展開 旅立ちまでの希望に 全力で応えてくれる訪問医

医療法人 光誠会 しろばとクリニック

●内科・外科

栗岡 宏彰院長

プロの力を集結してトータルにサポート

2010年4月に在宅医療を中心として開設したしろばとクリニック。〝救えない命、心だけは救う〟という言葉を胸に、日夜多くの患者の元へ向かい訪問診療に尽力する栗岡先生。急な要請にもできる限り対応してくれる姿勢は、地域住民にとって力強い存在となっている。訪問できるエリアも八尾市内全域から市外の一部まで広範囲に対応している。「訪問診療では、心電図検査やレントゲン検査、血液検査、点滴注射など外来でしか行なえなかった検査や治療も可能です」。在宅医療は自宅で過ごしたいという願いが叶えられるだけでなく、家に帰ることができた安心感などから生活の質（QOL）も向上し余命以上に長生きすることがある。しかし最も重要なのは、家族の介助やスタッフの協力体制だと栗岡先生は語る。「取組むべき課題は多いですが、看取りまで含めたトータルなケアを住み慣れた自宅で受けられる環境を作っていきたいです。そのためには患者様のご家族の助けも必要ですが、介護ヘルパーやケアマネージャー、看護師がどこまで対応可能かを知り、うまく

火・木・土曜は在宅診療をフルタイムで実施。他の日も外来診療の合間を訪問診療にあてている。小回りの良い軽自動車で移動

末期がんの方、難病の方、人工呼吸器を装着されている方でも受け入れ可能でどなたでも安心して暮らせる

まだまだ医療処置が必要とする方のための施設。『しろばとメディカルケアホーム』

高い専門性と24時間体制で穏やかな旅立ちに寄り添う

在宅医療の現場では、利用する患者のほとんどが慢性疾患か、末期のがん患者である。同院では特にがん患者の対応に力を注ぎ、自宅で最期を迎えたいという願いを実現するため、24時間365日体制で栗岡先生は往診を続けている。末期のがん患者になると残された時間はそう長くはない。限られた時間の充実を目指し、地域連携室や地域包括ケアセンターとも密に連携し、さらに看護師や介護ヘルパー、ケアマネージャーと協力してスムーズなケアを実施している。「患者様が亡くなることはもちろん残念ですが、ご自宅で苦しむことなく最期を迎えられた時、一緒に過ごさせていただくことは感慨深いものがあります。またご家族様が精一杯介護をやり遂げられた姿を見ると、看取りの大切さを感じずにはいられません」と話す栗岡先生。最期までその人らしく生きるための方法を模索しながら、熱い思いを胸に今日も八尾の町を駆け巡っている。

介護と医療の両立を目指し看取りまで対応するケアホーム

昨年1月から『緩和ケアホーム』と『メディカルケアホーム』を開設し、さらなる地域住民への医療サービスを目指す同院。ホームならではの特長は、末期のがん患者や医療が必要な患者が身体的、精神的苦痛を和らげ、ADL（日常生活動作）の低下を最小限に食い止めながら、介護と医療処置の両方を受けられることだろう。「病院では自宅に戻ることができないがん末期の患者様は療養型病院やホスピスへ紹介するのですが、当ホームもそれらの施設と遜色がないと、がん拠点病院の先生方に一定の評価を得ていますので患者様をご紹介していただくことがあります」。またホームでは、食事の内容や面会時間も自由に選択し自宅の家具まで持ち込み可能など、患者宅に近い環境で療養することができる。そして、いよいよ死期を迎える間際にも患者の希望により自宅へ戻り、引き続き栗岡先生が在宅診療を受け持つサポート体制にも事欠かない。「患者様に住み慣れた自宅で療養してもらい、最期を迎えるための援助をするのが在宅療養の存在意義だと思います。そのため、すべてを受け入れることはできませんが、できる限り患者様の要望に添えるよう柔軟な体制を整えています」。現在では自宅で最期を迎えたいと希望する患者は多いが、実際のところ家で看取るのは難しく病院で亡くなるケースがほとんどだ。だからこそ間口の広いケアホームの存在は大きな意味を持つ。「日本の人口約1／3が高齢者になると言われる2030年にかけて、最期の迎え方を真剣に考える時代になってきています。自宅で最期を迎えることができない方のために、施設での体制作りが必要だと考えます。介護に加え、医療行為が行える当ホームがモデルになれば、自宅や施設での看取りがさらに増え、地域全体で患者様らしい旅立ちをサポートできると思います」。より一層の質的充実を図りながら、そう遠くない未来のビジョンを栗岡先生は描き続けている。

教えて！先生　『しろばと緩和ケアホーム』や『しろばとメディカルケアホーム』ではどのような過ごし方ができますか？

どちらの施設も患者様を最期までケアさせていただきます。個人のライフスタイルに合わせた生活をお過ごしいただけるよう設備を整えています。屋上は緑化されたスペースもありのんびり過ごすことができます。またピザ釜やバーベキュースペースもありますので、ご家族で自由にご利用いただけます

栗岡 宏彰 先生

【プロフィール】O型／かに座／金沢医科大学卒／大阪府出身／日本内科学会総合内科専門医、日本内科学会認定内科医、日本救急医学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医

【趣　味】動物の飼育が好きなので自宅では熱帯魚とうさぎを飼育しています。しろばとクリニックだけに緩和ケアホームの屋上で白い鳩を飼い始めました

【休日の過ごし方】ホームセンターに行って、店内を探索しています。たくさん商品があるのでそれだけで楽しいですね。あとは友達と飲みに行ったり、焼肉店を巡り気になれば何軒かはしごします

スタッフからのMessage

全スタッフが連携し、いつか訪れる最期のときまで細やかな配慮に努めています

私たちが大切にしているのは、医師やスタッフはもちろん患者様を取り巻く人々と協力して実践するチーム医療です。ケアホームでは、リハビリや看護、栄養管理、日常生活の支援や介助などを行い、患者様のご家族のような気持ちでケアにあたるよう心がけています。訪問診療では、住み慣れた自宅で過ごしたいと願う患者様の想いを尊重し、人に寄り添う介護・看護に努めています

▶医療詳細ページ有り　97P

hospital data
医療法人 光誠会 しろばとクリニック／TEL:072-928-4877　八尾市光町1-29 サンフォレスト104　http://www.shirobato.com/